

No.	質問する項目	質問内容	回答
1	<p>吉岐新時代 プロジェクト発表</p>	<p>二地域居住と完全移住について この2つの考え方で大きな違いは、税金をどこで支払うかだと思います。 これまでの完全移住では移住を目的にするため、そのまま税金が入ってきました。 しかし二地域居住では住所をどこに置くかで税金の納入先も変わります。 都会に住所を置き、こちらにたまに来る方もおられるでしょう。 行政的な移住の目的は納税にあると考えます。 そこで質問です。</p> <p>① 現在、二地域居住されて吉岐と関係がある方で、どの程度の方が吉岐に住所を置いているか把握されていますか？</p> <p>② 家を購入されるとなると二地域居住のメリットが薄くなりそうだがどうお考えか？</p> <p>③ 人口維持の観点から二地域居住の方に何をどの程度まで期待されているのか？</p> <p>以上です。 私は二地域居住の推進に賛成です。しかし二地域居住者がもたらすメリットを具体的に示さなければと考えます。 どうぞご教示ください。</p>	<p>① 二地域居住されて吉岐と関係がある方が、吉岐に住所を置かれているかについて、現在は把握していません。</p> <p>② 二地域居住の場合、一定期間、吉岐市に在住されるため、拠点となる場所は必要だと考えます。家を購入されるのも一つの選択肢だと思いますが、例えば、市内の空き家や用途廃止した公営住宅などをお試し居住施設として整備し、数カ月間の居住に活用していただくようなことも必要かと考えます。当然、民宿等の活用もあるかと思えます。行政としては、二地域居住を希望する方に、本市に在住する場合の拠点について、多くの選択肢を示すことが必要だと考えています。</p> <p>③ 二地域居住につきましては、最終的には本市への移住・定住の一つのステップになることを期待しているところでありますが、吉岐に興味や愛着を持って一定期間在住していただく中で、消費経済活動による市内の経済振興や、地域活動やイベントに参加していただくことで、地域の担い手不足の解消等に一役買っていただくことに期待しています。</p>
2	<p>吉岐新時代 プロジェクト発表</p>	<p>盈科小の候補地は、もう既にあるのか？ 場所は、本村触なのか？</p>	<p>今回発表いたしました盈科小学校の建て替え移転につきましては、一つの可能性としての学校移転案です。 盈科小校舎は建築後68年経過しており、建て替えを検討する時期にきていると思われれます。建て替えを考えたとき、現在地は校舎裏が急傾斜の警戒区域に指定されていることや、仮設校舎をグラウンドに建設した場合に、教育課程に支障が出るなど、様々な要因で現在地案は現実的ではないと考えられます。 そのため、子どもたちのことを最優先に考え、教育に支障をきたすことなく、より充実した環境の場所への移転についても考える必要があるとしたものです。 今後、建て替えや移転およびその候補地など、関係機関や地域などの意見をお聞きしながら、決定していくこととしています。 よって、ご質問をいただきました盈科小の移転候補地はあるのか、本村触なのかにつきましては、現時点では決まっていない状況です。</p>

No.	質問する項目	質問内容	回答
3	吉岐新時代 プロジェクト発表	<p>離島では、特に油が高い中で離島ならではの自給自足可能な燃料である木材を燃料とするつもりは有りませんか？それには障害木の有効利用や産廃扱いの伐採等の有効利用が一番早いと思います。しかも国が認めたCO2排出量0で有り、出来ることから少しづつでも暖房費削減を図るべきだと思います。今回みたいに中東戦争でも、原油高を心配する事無く暖房費を気にする事有りません。空港延長線上の伸びた障害伐採木の1本も流用出来ない理由から、離島ならではの有効利用等行う事で高い燃料を買うこと無くその燃料で作った電気も節約出来ます。大学の実験結果で薪ストーブ1台で年間3トンのCO2削減が可能との論文が有り、働く場所も無い、給料が安い、燃料等物価は高いでは、吉岐に住みたく無くなる負のスパイラルです。</p> <p>今なら設置や火気を扱う技術伝承も可能ですし、この先ネット等で購入して吉岐の人達が生命の危険に晒されたり高い設置費用を取られたりする事が想像される事(過去の聞取り)から、先ず薪の流通を促し年寄りでも燃料の薪を確保出来れば10万円位から設置可能で今の状況から計算すると僅か数年で元が取れ充分安全な暖房が可能です。先ず、業者が伐採する障害木でも産廃扱いを止める必要が有ると思われませんが、業者には産廃処理を行う事で利益を得ているとの話もある事から薪にする事で販売利益や補助を行う事で将来的に島にお金を回す事は豊かな将来を作る事になりませんか？</p>	<p>貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。</p> <p>CO2排出量削減や昨今の国際情勢に鑑みたエネルギーの安全保障の観点からも、市内のエネルギー資源を有効活用することは必要だと考えます。</p> <p>また、現在、物価高騰が続く中においては、化石燃料の代替としての木質バイオマス資源の活用も有効だと認識しています。市としましても過去に木質バイオマスのエネルギー利用について検討を行いました。間伐材や道路支障木等について、畜産が重要な産業である吉岐市においては、敷料としての需要もあり、燃料として使用できる量に限度があるという結果でした。</p> <p>ご意見のとおり、エネルギー費用の域外流出を防ぎ、域内での流通を促進する観点からも、今後、間伐材や道路支障木等の調達や流通の方法等を含めて、薪等の利用の可能性を改めて検討していきたいと考えます。</p>
4	吉岐市未来シミュレーション 結果報告	<p>シミュレーション結果では「観光特化型（シナリオ3）」が「一次産業の衰退」を招くとされていましたが、実際には観光客が増えることで、農業や漁業もむしろ活性化するのはないでしょうか。観光と一次産業の関係性をどう捉えていますか。</p>	<p>新時代プロジェクトは、観光と一次産業のどちらか一方だけをやるのではなく、進める「順番」と「バランス」を重視しています。</p> <p>○初期（2～3年）： 基盤が脆弱なままでは、活動が持続しないということが予想されるため、まずは市民の生活基盤である一次産業の充実（島内基盤づくり）に注力すべきと考えています。</p> <p>○中期以降（6年後～）： 確立した基盤の上に、観光などによる外貨獲得（島外からの流入）を加速させ、産業全体を活性化させていきます。</p> <p>つまり、地域経済を循環させるために「まずは足元の基盤を固め、その後、外からの力を取り込んで相乗効果を最大化させる」という戦略的なステップを踏む考えです。</p>

No.	質問する項目	質問内容	回答
5	<p>吉岐新時代 プロジェクト発表</p>	<p>①若者の起業教育について 教育によって起業家精神を持つ若者が増えても、結局ビジネスチャンスを探して島外へ流出してしまうのではないのでしょうか。人口増に繋がるほどの効果があるのか疑問です。</p> <p>②インフラの維持について 人口が一時的に1.5万人程度まで減少する過程で、船の便数などの生活インフラが耐えられなくなる（縮小してしまう）心配はありませんか。</p>	<p>① 現代の若者は単なる経済成長よりも「住みやすさ」や「やりがい」を重視する傾向があるとみています。吉岐の豊かな自然資本を活かし、生活と仕事のバランスが取れた「持続可能な暮らしの場」を整えることで、島外へ出る人だけでなく、島で挑戦し続ける若者や外から惹かれて来る人を増やし、人口を維持する未来を目指します。</p> <p>② 人口減少に伴うインフラ縮小（船の減便など）に対し、「人口を回復・維持させる確かなシミュレーション」を企業に提示し、将来的な需要を根拠に撤退や縮小を思いとどまるよう働きかけます。必要であれば補助金等の支援も検討し、2万人が住み続けられる生活基盤を目指します。</p>
6	<p>吉岐新時代 プロジェクト発表</p>	<p>①特定プロジェクト外の事業者への支援： 4つの町の特定分野に予算やエネルギーが集中することで、その枠組みから外れた地域で活動する個人事業主（カフェや地元の鮮魚店など）が取り残され、衰退してしまうのではないかと不安です。</p> <p>②島外企業による独占への危惧： 人口減少という危機に乗じて島外の大きな資本や企業が入り込み、最終的に地元の小さな事業者が飲み込まれ、吉岐本来の良さが失われてしまう（ショック・ドクトリンのような事態）可能性をどう考えていますか。</p>	<p>① 外部資本に頼りすぎて地域が疲弊する未来（オーバーツーリズム型など）を避けるため、まずは「市民の生活基盤」を固めることを最優先し、その土台の上に外貨を獲得する戦略的な順序を進めます。</p> <p>② エンゲージメントパートナーは「吉岐のために」という志を持つ企業であり、独占や買収が目的ではありません。既存業務を細分化して人手不足を補うなど、地元事業者と互いに利益がある関係を築いており、地元の飲み込みは起こらないと考えています。また、4町で特定プロジェクトに集中するのは、確実に成功事例を作り、そのノウハウを島全体へ広げるためです。一箇所で生まれた活気が他町へも循環するモデルを作り、行政主導ではなく市民が「自分たちもやりたい」と思えるような展開を目指します。</p>